

研究レポート No.798 岩手県農業研究センター

大豆の補給型施肥による生育及び収量

【1 成果の概要】

- (1) 土壤改良目標値（可給態リン酸 16mg/100g、カリ飽和度 2%）を満たした大豆圃場では、リン酸、カリを従来施肥量より減らした**補給型施肥**にしても生育・収量は従来施肥とほぼ同等です（表1、図1）。
- (2) 補給型施肥にしても土壤中の**可給態リン酸**含量の大きな低下は見られません（図2）。
- (3) 交換性カリは従来施肥、補給型施肥ともに低下する場合があります（図2）。

表1. 成熟期の生育・収量・品質

試験年次	試験区	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/株)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (個/株)	子実重 (kg/10a)	同左比 (%)	百粒重 (g)	粗蛋白 (%)	検査等級	
26	補給型施肥	44.1	14.2	4.5	52.5	327	97 (100)	36.8	-	-	
	従来施肥	49.4	14.5	4.0	55.4	335		39.5	-	-	
	低リン圃場補給型施肥	42.4	14.1	4.5	51.1	301		92	36.0	-	-
	低リン圃場従来施肥	46.9	14.5	4.6	54.5	329		98	37.7	-	-
27	補給型施肥	57.8	16.3	3.1	59.8	365	98 (100)	41.2	43.4	1上	
	従来施肥	60.3	16.7	2.6	56.3	374		40.8	41.8	1上	
	低リン圃場補給型施肥	54.3	16.2	3.6	59.1	314		84	37.6	39.6	1上
	低リン圃場従来施肥	59.2	16.0	3.5	57.5	319		85	38.8	38.7	1上

分枝数:1次分枝数
粗蛋白:乾物当り、窒素、タンパク換算係数6.25で算出
26年、27年ともにいずれの区も倒伏は見られなかった

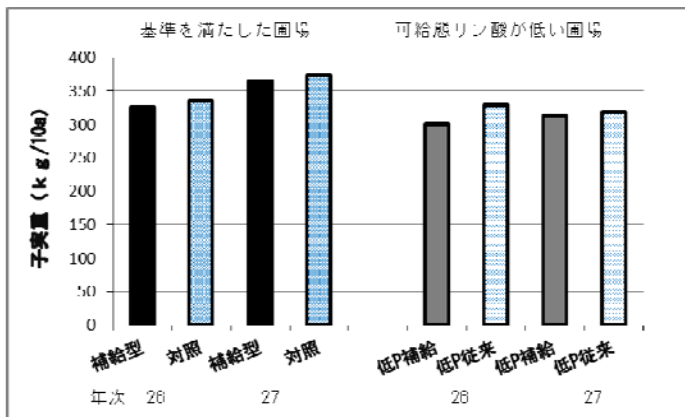


図1. 子実収量

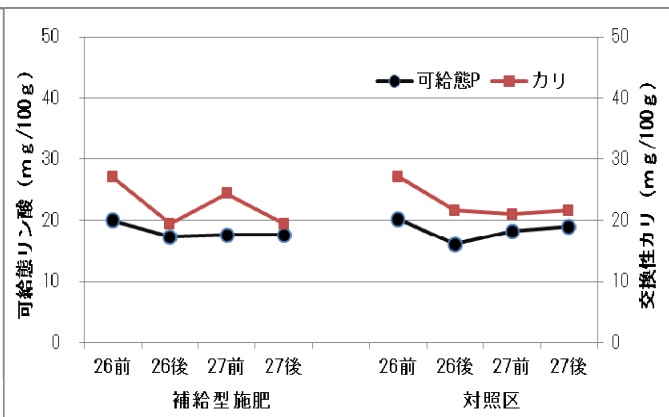


図2. 可給態リン酸、交換性カリの推移
(前:栽培前、後:栽培後)

【2 留意事項】

- (1) 補給型施肥は土壤診断を行い、土壤改良目標値に達していることを確認した上で実施します。また栽培後カリが減少する場合がありますので、定期的な土壤診断を行うとともに、当面は放射性セシウム吸収抑制対策が必要な地域ではカリの上乗せ施用を継続して下さい。
- (2) 可給態リン酸含量が土壤改良目標値未満の圃場で栽培した場合、従来施肥および補給型施肥いずれも収量水準が低下する場合があります（図1）。このような圃場では土壤改良を実施します。

担当研究室 環境部 生産環境研究室

〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4422 FAX. 0197-71-1085